

ぼくと私の防災のまち(その)

今回は、防災まちづくりへの思いを会員から寄せていただく企画としました。

年をとってもこのまちで暮らしたい。予測不可能な大地震や災害の発生があった時、最も無防備な要介護者(特養ホーム、病院、在宅看護の方たち)が集まっているところに、必要な救援の手が差しのべられるでしょうか。

とても深刻な問題ですが、いざと言うときのまちの住民パワーやボランティアの人たちの介護移送(病院へ車で)で、相当数の人命が救命されるのを願っております。私たちのまちで自治会、町会が普段から防災対策をしっかり練り上げて、各人の役割分担を意識付け、訓練を実施してゆけば効果的です。

言うは易しですが、現状の自治会、町会では、会員の高齢化もあって、若年層の参加が課題です。2、3年位すれば、団塊の世代が若熟年層としてリタイアされるので、この人材が地域防災の力になって下さることに期待しております。(大森中八幡自治会 岡田 延次)

番外編 ~災害時の負傷について調べました~

1. クラッシュ症候群

がれきの下敷きの状態で、長い時間いると筋肉が損傷し、そこから出る成分作用で腎臓の機能が不全になる。救出直後は元気そうだが、時に突然発熱し、茶色い尿が出て死に至ることがある。救出後、医師による手早い治療が必要。

2. 感染の防止

負傷者の血液には、直接触れないように注意すること。タオルやハンカチがないときは、スーパーの買物袋などのビニールを利用して、感染を防ぐ。



災害時には、お年寄りや体の不自由な方々など要介護者への助け合いが大切です。災害に強いまちをつくるには「ひとづくり」も大切であると改めて感じました。

皆さんからも防災まちづくりについて日頃感じたこと、考えたことをお聞かせ下さい。(広報部)

編集後記

去る七月二三日、東京でも震度五強を記録する地震があり、本宿町会でもマンション十二階でガラスが割れ、家財が倒れる被害が出ました。あらためて天災の恐ろしさを痛感しております。

当会では、いつ来るかわからない天災に備えて「災害に強いまちづくり」を目指し、防災に役立つニュースを提供してまいりますので、一人でも多くの皆様のご協力をお願い申し上げます。

(運営委員 田中 将之)

| | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 大森中・蒲田・糀谷地区 防災まちづくりの会 構成団体 | 左記の団体からの代表と公募住民の56名の会員で活動しています。 |
| 川端自治会 | 東蒲田二丁目南町会 |
| 大森山谷自治会 | 南蒲田二丁目自治会 |
| 大森町自治会 | 南蒲田二丁目町内会 |
| 本宿町会 | 南蒲田三丁目町会 |
| 大森中八幡自治会 | 新宿東町会 |
| 大森堀之内自治会 | 大森第一小学校PTA |
| 北糀谷一丁目町会 | 北糀谷小学校PTA |
| 西糀谷一丁目町会 | 糀谷小学校PTA |
| 西糀谷二丁目町会 | 東蒲田小学校PTA |
| 西糀谷三丁目町会 | 南蒲田小学校PTA |
| 西糀谷四丁目町会 | 大森東中学校PTA |
| 大鳥居中央町会 | 糀谷中学校PTA |
| 東蒲田一丁目自治会 | 東蒲田中学校PTA |
| 東蒲田二丁目町会 | 公募住民 |



大森中・蒲田・糀谷地区 防災まちづくりニュース No15

平成17年11月

大森中地区 防災生活圏促進事業

編集:大森中・蒲田・糀谷地区防災まちづくりの会「さんかく隊」

発行:大田区まちづくり推進部 都市開発課 TEL.5744-1338

私たちは今、何をすべき?

『さんかく隊(大森中・蒲田・糀谷地区防災まちづくりの会)』は、区の防災生活圏促進事業を機に活動を開始しました。「逃げないですむまち」をつくるにあたって、私たちの会は今後どういう役割を負うといいのでしょうか。都市開発課の石井課長を招いて、当会の運営委員らと意見交換を行いました。(9月27日、本ニュース編集会議にて広報部取材)

まちのことを考える

活動当初の思い: みんなに防災に関心を持ってもらい、「まちの温度」を上げたいという思いでした。当時は、「まちづくりは役所がやること」という意見もありましたが、私たちの声でも進めていくことができると思い始めました。

石井課長のご意見: まちづくりの会が、住民の視点で地域の防災性をわかりやすく伝え、地域の方々とともに考え、行動していくことがまちの防災性を高める上で必要と考えます。防災まちづくりを進めるこの会は地域の方々になくしてはならない存在になってほしいと思います。

長い目で人づくりをする

世代を広げて: 私はPTA会長として会に入りました。当時は、ご年輩の方が多い中での参加でした。その後、メンバーの世代は幅が広がりました。

時間がかかる: 私もPTA会長で参加しましたが、学校では会のことが知られていませんでした。短時間で意識が高まらず、次の会長になってようやく会のことが校内に掲示してもらえようになりました。



女性の立場・役割も大切: PTAの方々が、子どもさんの卒業後も公募会員として活躍しています。お母さんの感覚からの防災への役割、意見もとても大事だと思っています。

壁もある: 町会などでは「防災部」など似た名前の活動が多く、まちの人は私たちの会になかなか取り合ってくれないことがあります。

会でないといけないことがある: 建て替えなどで場合によっては痛みを伴う場合があると思います。そういう時に、私たちがまちづくりの大切さや方法を伝えるなど、感触をやらせる役目が必要なのでしょう。

安全なまちにしていく推進役になる

区からのアドバイス: 区内では学校避難所はすべて耐震化されています。そこで、避難所及びそこへ通じる道路沿いでは、建物の不燃化を進めることが必要と考えています。「まちのルール」をつくるなど、みんなで安全にしていく取り組みが必要だと思います。

「逃げないですむまち」をつくるには、会にしかできない役割があることがわかりました。今後もニュースを通じて防災まちづくりの大切さをお伝えしますので、よろしくお願ひします。